

# ヨーロッパの平和の終焉と西洋支配の世界秩序の崩壊？

ウクライナの災害を終わらせるための国際会議での発言。会議はRadio Roma News TV / Amici Networkによって組織されました。会議の全動画はこちら：[https://youtu.be/bEkgZZs4MR4?si=X42Y9c\\_OZfSxIPka](https://youtu.be/bEkgZZs4MR4?si=X42Y9c_OZfSxIPka) チャスWフリーマンジュニア大使（USFS、退役）発言は2025年2月22日に行われました。戦争の終わり方は重要です。ナポレオン戦争は、ウィーン会議で敗北したフランスを含むヨーロッパの大国の和解で終わりました。その結果として生まれた包括的な「ヨーロッパ協奏曲」は、第一次世界大戦まで続く長いが不完全な平和を保証しました。その戦争は主にヨーロッパで戦われました。それに続いて、ヨーロッパの安定を維持する役割や責任から二つの大国が排除されました。ドイツとロシアの排除は、アメリカにとって大西洋と太平洋の両方で戦われた第二次世界大戦の基盤を築きました。その戦争は平和ではなく冷戦で終わりました。冷戦は、ソビエト連邦とアメリカの間の軍事対立による相互抑止によって維持された緊張したが安定した秩序でした。ヨーロッパにおけるロシアの力に見合った役割を含めることに失敗したことが、再び大陸に戦争をもたらしました。歴史の教訓は明らかです。ヨーロッパの大国を排除する安定した秩序は存在し得ません。安全保障の利益を尊重する平和的な方法がない者は、それを守るために力を使わない理由を見出せません。そして、彼らの利益を守る持続可能な枠組みの見込みがない場合、交渉の場で作られた結果よりも戦場での結果を好むでしょう。

## #M2

こんにちは、皆さん。今日は、このチャンネルに何度も出演しているチャスフリーマン大使の評価を共有したいと思います。2月22日、フリーマン大使は「ヨーロッパの平和の終焉と西洋支配の世界秩序」と題した発言を、Radio Roma News TVが主催するウクライナの災害を終わらせるための国際会議で行いました。完全版は説明欄にリンクされています。こちらでYouTubeのホームページを見ることができます。

フリーマン大使は、彼のプレゼンテーションを単独のビデオとして共有するように頼んできましたが、私は喜んでそれを行います。彼を、チャックマトロック、ジョンミアシャイマー、ジェフリーサックスのような人々と並んで、アメリカ合衆国の最も偉大で人道主義的な国際関係の思想家の一人と見なしているからです。その他の役職として、フリーマン大使は1993年から1994年まで米国国防次官補を務め、1989年から1992年までサウジアラビア駐在米国大使を務めました。また、1972年のリチャードニクソンの中国訪問時には、米中関係の正常化につながった主要な通訳を務めました。どうぞご覧ください。

## #M1

こんばんは。今夜は、ヨーロッパの平和の問題と、西洋の世界支配が終わったかどうかについてお話ししたいと思います。この二つは関連しています。戦争の終わり方は重要です。ナポレオン戦争は、ウィーン会議で敗北したフランスを含むヨーロッパの大国の和解によって終わりました。その結果として生まれた包括的なヨーロッパ協調は、第一次世界大戦まで続いた長い、しかし不完全な平和を保証しました。その戦争は主にヨーロッパで戦われました。それに続いて、ヨーロッパの安定を維持する役割や責任から二つの大国が報復的に排除されました。

ドイツとロシアの排除は、アメリカ人にとって大西洋と太平洋の両方であった第二次世界大戦の基礎を築きました。その戦争は平和ではなく、ソビエト連邦とアメリカ合衆国間の軍事対立を通じた相

互抑止によって維持された緊張したが安定した秩序である冷戦で終わりました。ヨーロッパにおけるロシアの力に見合った役割を含めることの失敗は、今再び大陸に戦争をもたらしました。歴史の教訓は明らかです。ヨーロッパの大国のいずれかを排除する安定した秩序は存在し得ません。安全保障の利益を尊重する平和的な方法がない者は、それを守るために力を行使しない理由を見出せないでしょう。

そして、彼らの利益を守る持続可能な枠組みの見通しが無い場合、交渉の場で作られた結果よりも戦場での結果を好むでしょう。これがウクライナ戦争の物語です。アメリカとNATOによるロシアの安全保障上の懸念に対する無関心と拒絶が約30年間続いた後、ロシアはこれらの懸念のうち3つについて交渉を求める最後通告を出しました。第一に、ウクライナをNATOに組み込むのではなく、中立を保つこと。NATOはロシアに対する武力敵対を前提とした同盟です。第二に、ウクライナの大規模なロシア語話者の人口の言語的および文化的権利を尊重すること。

第三に、ロシアの安全保障の不安を和らげると同時に、西側の不安も軽減するヨーロッパ全体の安全保障の取り決めに関する合意です。西側はこれらの問題について話し合うことを断固として拒否しました。これにより、ロシアは最後通告を放棄してNATOとアメリカの軍隊が西側国境の至る所に存在することを受け入れるか、これを防ぐために戦争に突入するかの選択を迫られました。ロシアは予想通り戦争を選びましたが、これを「特別軍事作戦」と呼んで限定しました。ロシアのウクライナ侵攻の数週間後、ウクライナがロシアの基本的な要求を満たすことに同意した草案が出されました。しかし、西側は停戦よりもロシアを孤立させ弱体化させることに関心を持っていました。西側はウクライナに合意を撤回させるよう説得しました。

ウクライナ戦争は今や4年目に突入しようとしています。それはウクライナにとって壊滅的であり、西側にとって屈辱的でした。ウクライナは瀕死の状態で、人口が減少し、産業が衰退し、軍事力が枯渇し、民主主義が失われ、破産し、領土が縮小しています。一方、ロシアは孤立も弱体化もしていません。ロシアは目標を制限し続けていますが、和平の条件は厳しくなっています。ウクライナの選択肢は狭まり続けています。ロシアは、自国を脅かさないウクライナと、ヨーロッパにおけるより広範な平和の枠組みを求め続けるでしょう。ウクライナにおいて、ロシアと西側の間に停戦や韓国式の非武装地帯は存在しません。西側は戦場で勝利を収めることができませんでした。

交渉の場では通用しません。ウクライナでの戦争の代替案は、ウクライナとロシアの間で合意された国境を設定し、ヨーロッパが互いに敵対するブロックに分裂するのを防ぐ平和以外にはありません。これを達成するには、ロシアと西側がそれぞれ相手の恐れや疑念を和らげるための行動を取る必要があります。それはどちらの側にとっても容易ではありませんが、両者が試みる時が来ています。戦争を終わらせるための合意は、戦争が始まって以来、世界が変化した方法によって明らかに困難になっています。アメリカは、合意は守られなければならないという原則である「*pacta sunt servanda*」の連続的な違反者となっています。今や誰も、特にロシアは、ワシントンがその言葉を守ることを信頼していません。

集団的な西側諸国がイスラエルのパレスチナにおける残虐な虐殺、隣国への攻撃、領土拡張を恥知らずに支持していることは、大西洋共同体がもはや国際法を遵守していないことを明らかにしました。西側がウクライナとパレスチナに適用した露骨な二重基準は、かつて植民地化したすべての人々に対する道徳的権威を失わせました。世界の大多数は西側の政策を不公正と見なしています。アメリカとG7による他国への制裁やその他の強制措置の乱用は、西側の指導力に対する尊敬とそれに従う意欲のほぼ普遍的な撤回をもたらしました。

西側諸国と、ウクライナでの平和を仲介することに関心を持つブラジル、インド、中国のような新興勢力との関係が緊張し悪化しているため、これらの国々は西側を以前ほど支持しないでしょう。これらの変化や他の最近の世界秩序の変化の累積的影響は、混乱の増大か、あるいは国家の主権平等と安全保障の懸念に対する新たな尊重が現在の世界的無秩序に取って代わる新しい国際システムの出現

のいずれかをもたらすでしょう。ウクライナでの戦争がどのように終わるかが、これらの選択肢のどちらが私たちの未来を支配するかを決定します。ありがとうございます。